

エオラプトル ルネンシス

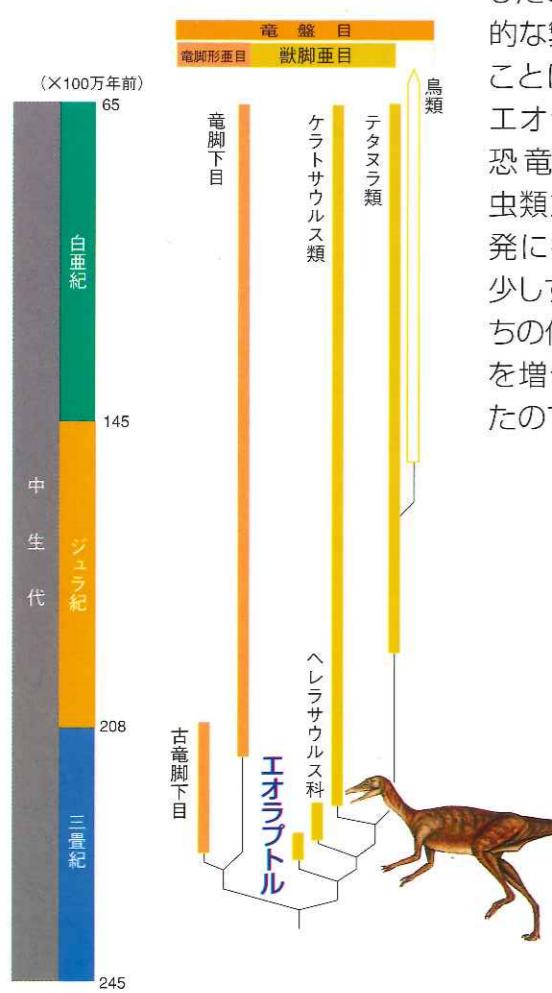
Eoraptor lunensis Sereno, Forster, Rogers and Monetta, 1993

エオラプトルは、1991年、シカゴ大学のポールセレノラによって、アルゼンチンの北西部にある三畳紀後期（約2億3000万年前）の地層、イスキガラスト層から発見されました。全長約1mで、最古の恐竜のひとつです。

三畳紀は哺乳類型爬虫類や恐竜以外の爬虫類が繁栄していた時代です。恐竜は哺乳類と同じく、まだ出現したばかりの小さなグループで、これらの多様な爬虫類が衰退・絶滅したあとに爆発的な繁栄することになります。エオラプトルは恐竜以前の爬虫類たちより活発に行動でき、少しずつ自分たちの仲間（恐竜）を増やしていくのでしょう。

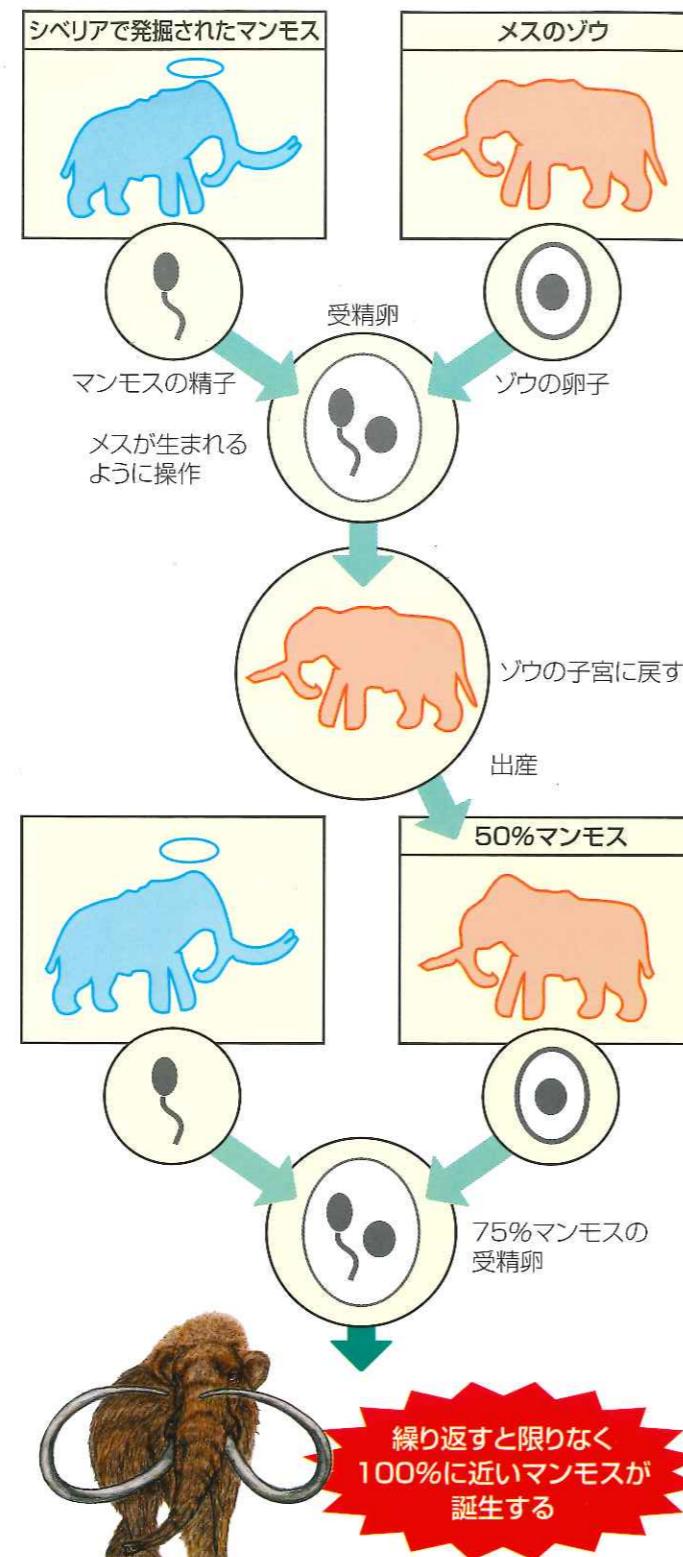


エオラプトル ルネンシス



豆知識 マンモス復活の方法

冷凍精子を使う場合



御船町恐竜博物館情報誌
ダイナソートピックス No.3

■発行日/平成14年2月15日

■編集・発行/御船町恐竜博物館

T861-3207 熊本県上益城郡御船町大字御船995-3
TEL (096)282-4051 FAX (096)282-4157

<http://www2.ocn.ne.jp/~dinomuse/>
Email/dinomuse@theia.ocn.ne.jp



印刷/株式会社トライ

御船町恐竜博物館情報誌 ダイナソートピックス

Dinosaur Topics



マンモス復活への夢

実現へむけての調査進む！

「マンモスが復活する!?」
こんな夢みたいな話が実現する日も近いかもしれません。



かなりこわれていることがわかり、残念ながら、
マンモス復活には使えなかったようです。
この発見のシーンは、以前テレビでも放映されていたので、中には、その後の研究の進展に注目していた人も多かったと思います。

ご講演の中には、テレビや本などからは知ることができない最新の情報もたくさん含まれていました。そして何より、
マンモス復活へ情熱を注がれる後藤先生の姿に、私たちは夢と感動をもらいました。
講演会終了後も先生が持参されたマンモスの皮膚や歯などにさわることができ、
しばし先生を囲んでの、質問の時間が続き、
参加者のみなさんの関心の高さを感じられました。

11月11日、今年度の第5回目のセミナーとして、元鹿児島大学教授で、現在、画図幼稚園園長の後藤和文先生による講演会が御船町カルチャーセンターでひらかれた、45名の参加がありました。

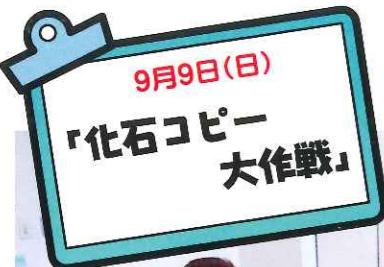
今回の講演会のテーマは、「マンモス復活への夢」。1万年前に絶滅したマンモスを、バイオテクノロジーを使って、現代によりみがえらせようというお話です。後藤先生は、「精子が死んでいても中の遺伝子さえ正常であれば生命を誕生させることができる」ということを、牛を使って世界ではじめて実際に証明した人です。

もし、シベリアの凍った大地の中から、冷凍したマンモスの精子を見つけだすことができれば、現代のゾウとの混血を誕生させることができます。

ご講演の中では、シベリアの永久凍土にねむるオスのマンモスの化石を探しに行く様子が紹介されましたが、厳しい自然の中での調査は危険をともない、大変なものであることが良く伝わってきました。

先生ご自身も、新鮮なマンモスの皮膚を発見され、保存状態の良いDNAがとり出せるという期待が高まりました。しかし、日本に持ち帰って分析した結果、DNAが

博物館セミナーで講演
画図幼稚園園長 後藤和文先生
(元鹿児島大学教授)



「化石コピー」とは、レプリカづくりのこと。化石のレプリカづくりは、博物館でも人気がある行事のひとつです。今回は、25名の参加がありました。

まず、印象材（歯科での型とり用）を使って本物の化石（アンモナイト・三葉虫・恐竜の歯など）の型をとります。印象材は、かたまるのがはやく、急いでしっかり混ぜないといけないので、ちょっと大変。何とか雌型ができるあと、今度は、石こうで雄型をつくります。雌型から取りだしてみると、本物と同じかたち。最後に、アクリル水彩絵の具を使って、着色していきます。「えっ、どっちが本物!?」と、本当におどろくほどの出来栄えのレプリカを完成させた人もいて、みなさんそれぞれに満足そうです。昼食をはさんでの4時間、あっという間だったようです。博物館に展示してあるレプリカもこうやってつくってあるので、本物と見分けがつかないことに少し納得していただけたかな？



残念ながら、朝から雨…。日程を短縮して、ミフネ化石ひろばで化石採集をおこないました。「夏休み化石教室に参加できなかったので楽しみにしていました。けど、ちょっと雨が…」と、空を見上げて少し残念そう。

しかし、採集をはじめると、雨が石についていた泥を落してくれて、すぐ化石を発見!!スタッフに貝化石の種類などを質問し、9000万年前、標高500メートルほどあるこの場所が、海の近くに広がる干潟であったことを実感。「雨が降らなければもっと良かったのに…」と、思ったけど、化石発見に一役買ってくれた雨。野外活動ならではの自然の雨のありがたさも体験した化石採集でした。



御船町恐竜博物館セミナー

※各セミナーは参加申し込みが必要です。
※1ヶ月前から参加の申し込みを受け付けます。

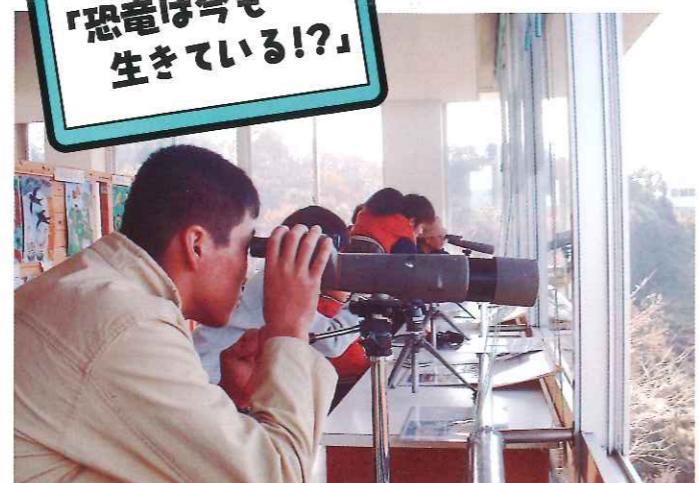
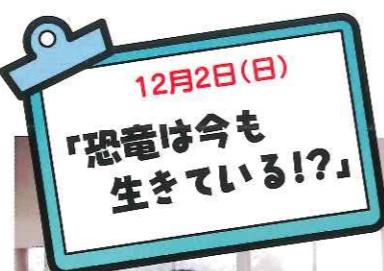
セミナー内容変更のお知らせ

今年度第8回のセミナーは都合により、次のとおり変更いたします。

平成14年
3月24日

恐竜ってどんな色?

アンモナイトの内部構造
—アンモナイトのバッジをつくろう—



鳥は、恐竜から進化した生きものであるといわれています。

御船町には、くまもと野鳥の森があり、野鳥観察に適したフィールドもあります。今回は、野鳥の森を利用し、冬の野鳥について学ぶ観察会をおこないました。風は少し冷たかったのですが、天候にも恵まれ、たくさんの水鳥を観察することができました。

講師の先生から、カモ類の見分け方を教えていただきながら望遠鏡のぞくと、トモエガモやオシドリの美しい羽の色に目を奪われます。また、最近できた観察小屋は近くで観察ができる絶好のポイント。ここからだと手持ちの双眼鏡でも十分見えます。

午後からは、博物館へもどり、恐竜から鳥への進化や恐竜と鳥の体のつくりについて学びました。

最後にこのセミナーの講師をお引き受けくださった岩下勝樹先生と野鳥の森のスタッフのみなさまに心から感謝申し上げます。



平成13年9月21日(金)

平成13年2月に入館者3万人を突破して、7ヶ月後の9月21日(金)に、早くも5万人を突破しました。5万人目の来館者は、御船中学校3年生の岩上基子さん(辺田見)で、この日は学校の授業(総合的な学習)で博物館を訪問しました。思いがけない幸運に仲間からは「おめでとう!」の声。町長から記念品として、御船米が手渡されました。

来年度から総合的な学習が本格的にスタートし、学校が児童・生徒や地域の実情に合わせ、ある程度自由に授業を組み立てられるようになります。御船町はもちろん、熊本県は、日本有数の多様な地質から成る土地で、自然史資料が豊富です。大地に目を向けると、いろいろな不思議が見つかると思います。



御船町恐竜博物館 登録博物館へ

平成13年10月12日に、御船町恐竜博物館は登録博物館になりました。

熊本県内には、博物館的な施設(資料館・美術館・動植物園・水族館など)が、150館近くありますが、登録博物館はそれほど多くありません。

博物館の登録の際は、資料を所蔵し、それを収蔵・管理する学芸員がいて、研究や教育活動をおこなっているかということが審査されます。

当館は、「恐竜」を題材として持つ、自然史博物館です。恐竜をとおして過去から現在までの自然環境を知り、地域の自然のあり方について考えることは、地球に住む私たちにとって、とても大切なことです。「展示を見せて人を集め」だけの施設ではなく、地域の人々の生涯学習の場、研究の場でなくてはなりません。

登録博物館になったことで、博物館活性化に関する事業について、国から補助を受けることができるなどのメリットもあります。

恐竜○×クイズ

1~5の問題に○か×でお答え下さい。

〈問題〉

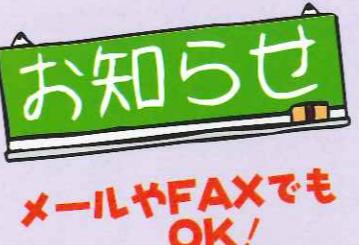
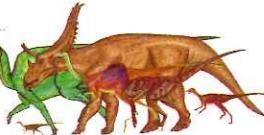
- 1 恐竜は卵から生まれていた
- 2 化石にはのこらないが恐竜にはお乳があった。
- 3 恐竜は、ときどき人をそそって食べるがあった。
- 4 世界でいちばん古い恐竜はアロサウルスである。
- 5 マンモスも恐竜である。

〈応募方法〉

ハガキにこたえと住所・氏名・年令・職業を記入の上、御船町恐竜博物館までお送りください。抽選で5名の方々に、恐竜モロッコ産のアンモナイト化石をプレゼントします。恐竜の絵とダイナソー・ピックスの感想や博物館へのひとことなどをそえていただけるとありがとうございます。本誌で紹介させていただきます。

■〆切/4月10日(消印有効)

■宛先/御船町恐竜博物館



御船町恐竜博物館 e会員 募集中!

御船町恐竜博物館では、行事案内や最新ニュースを電子メールで受け取ることができます。e会員を募集しております。現在会員数は40名を数えています。入会金・会費等は無料で、申込方法はとても簡単。下記アドレスまで、メールをお送りください。

(Email) dinomuse@theia.ocn.ne.jp